

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0270102221		
法人名	株式会社サニーライフ		
事業所名	グループホーム サニーライフ篠田		
所在地	青森県青森市篠田3丁目20-23		
自己評価作成日	平成22年8月26日	評価結果市町村受理日	平成22年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyohu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270102221&SCD=320
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年9月15日

(ユニット名 Aユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が「理念」「心得」を暗唱しており、常にそれらを意識し同じ思いでケアに取り組む事が出来ています。加えて全職員が有資格者であり、身体ケアだけでなく、精神的なケアにも力を入れています。また、コンサート・飲食店・温泉など個別に外出対応しており、本人の希望を叶える行動力もあります。地域との密着・交流もよく図れており、年々地域の方々からホームへの働きかけも生まれてきています。今後も利用者の思いを大切にしながら、地域に根ざしたグループホーム作りに取り組んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の川沿いに施設があり、地域の方々の散歩コースとなっており、四季の花を楽しみながら地域の皆さんと挨拶や言葉を交わし、散歩することが日課となっている。町内会の行事には積極的に参加し、町内旅行にも参加している。また、広報誌に行事案内や認知症ミニ情報を載せて、町内に回覧し、協力や理解を図っている。冬には施設にイルミネーションを飾り地域の皆さんを楽しませている。職員は積極的に研修に参加し、サービスの質の向上に努め、毎日理念の暗唱をすることにより、常に理念を念頭に置き、利用者の人格を尊重し、思いを大切に支援を行っている。家族に月1回近況報告書を送付し、協力や理解を得るように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい生活と地域との共存した理念を掲げ、毎日復唱して意味を理解ケアに生かしている。	その人らしい生活と地域との関係性を大切に事業所独自の理念が作成されており、施設内に掲示するほか、毎朝のミーティングで全職員で理念を暗唱し、共有化し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(草取り・記念式典・敬老会等)に参加している。また、ホーム内の行事(納涼祭・花見等)にも協力して頂き、交流を図っている。	町内会の行事(バス遠足、敬老会等)に参加している。また、事業所の行事に地域住民の方が気軽に参加できるように、町内の回覧板で広報誌を回覧し、理解してもらうとともに、交流を図るための働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りに認知症に関するミニ情報を掲載し、町内に回覧する事で認知症に対する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでのサービス提供や活動状況等の報告や話し合いを行い、出された意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は町会長、民生委員、婦人部部長、地域包括支援センター職員、市役所職員、家族、利用者、近隣のグループホーム職員がメンバーとなり2ヶ月毎開催され、外部評価の結果や活動状況等の報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに相談や質問をし、連絡を密にしている。	地域包括支援センター職員、市役所職員が運営推進員になっており、必要に応じて行政と連携を図るとともに、地域包括の専門性を有効的に活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、広報誌を毎回配布し、パンフレットも配布している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束が入居者に及ぼす影響やダメージを理解し、利用者の立場に立った「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルが作成されており、管理者、職員は研修に積極的に参加し、身体拘束の対象となる具体的な行為や弊害を理解し、利用者の立場に立った「身体拘束をしないケア」に取り組んでいる。外出傾向を察知した場合は、職員から声掛けし、付き添う支援が行われている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴の際にボディチェックを行いアザ・外傷などを把握し、それが出来た原因を探り、予防対策を考え実践している。また、言葉の虐待にも配慮している。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>勉強会や研修で学ぶ機会を持っている。過去には弁護士による成年後見制度の利用や、現在は日常生活自立支援事業の活用をしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に十分な説明を行い、不明な点があればその都度説明し、理解をして頂いている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの希望はその都度聞き、考慮し、対応している。面会時に家族の方が話しやすい雰囲気作りに努め、意見・要望を聞き対応している。</p>	<p>利用者には、日常の会話を大切にしてい意見を出しやすいように心がけている。家族に毎月1回、利用請求書、小遣い帳のコピー、個人の近況報告書等を送付し、面会時に話しやすい雰囲気を作り意見・要望を聞き、ケアに反映させている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを行い、職員が意見交換する機会を設けている。	月1回ミーティングが行われており、必要な場合は随時ミニミーティングを行い、職員が意見を出しやすい環境が整えられている。職員の異動は極力行わない方針であり、毎朝全ユニット合同でラジオ体操を行い、職員や利用者がなじみの関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・資格取得等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加・資格取得のための援助を行っている。入職3ヶ月・6ヶ月でホーム独自の自己評価を行ってもらい、不安や分からない事を把握し指導してる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所の推進会議に出席したり、交流実習を通してサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで困っていること・不安なことや要望に耳を傾け、受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が相談しやすい雰囲気を作り傾聴し、安心してサービスを開始出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族の双方と面談し、その時に必要なニーズを探りサービス対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として日常生活の中で(家事・花壇の手入れ・野菜作り等)教わりながら、一緒に行い支えあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆が絶えないよう、外出・外泊・行事などへ誘いかけ、家族と共に支えるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時もゆっくと会話ができるよう配慮したり、行きたい場所がある時は出来る限り支援している。	これまでの関係を断ち切らないよう、毎年、年賀状を出す支援を行っている。入所者の友人が訪問して気軽にゆったりと交流できるようになっている。また、馴染みの場所への支援は希望により行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、苦手な方同士でも間接的に関わり、利用者同士が楽しく出来るように取り組んでいる。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は退居後も家族の相談に応じて支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用し、本人の思いを聞き出している。普段の会話や様子からも受け取れるよう努めている。	センター方式を利用し、理念に基づき利用者の心の声を聞くよう努め、常に観察し、ミーティングで情報の共有を図りながら思いや希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、今までの生活歴等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式により生活のリズムを捉え、個々の出来る力・出来ない力を観察し、何かお手伝い(工夫)する事で出来るのではないかと考えながら状態を把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を基に話し合い、本人の状態に合った計画作成を行っている。	本人や家族の要望をもとにサービス担当者会議、ミニカンファレンスを行い計画作成を行っている。見直しの際はもちろんのこと、3ヶ月毎にモニタリングが行われ、記録され家族や関係者からの意見を収集し、本人の状況に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事・変化などあった時はケース記録に残している。また、申し送りを十分する事で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームならではの柔軟な対応に心がけ、その時々々のニーズに応じた支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に協力を得ながら、地域行事・ホーム内行事を盛り上げ楽しんで頂けるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望で決め、安心して医療サービスを受けられるよう支援している。	入所時にこれまでの受診状況を把握し、本人と家族の希望でかかりつけ医は継続して受診できる。認知症の専門医や歯科、眼科の受診は、往診、病院の送迎車を利用したり臨機応変な対応で支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、看護師が配置されており、状態変化・異常発見時は看護師の指示を受け、必要な場合はかかりつけ医に連絡し指示を仰いでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態を把握するため、情報交換や早期退院に向けての相談を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化・終末期について説明し話し合いを持っている。また、ホームで出来る事を説明し段階的に何度も話し合っている。	看取りに関する指針が作成され、会議、研修を通じて職員間で統一している。入所時に指針を説明し、早期から話し合いが行われ、看取り支援確認書を作成し、家族や医療機関との意思統一が図られており、連携が図れる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救急法を学ぶ機会を設け実践力を身につけている。またマニュアル作成し、いつでも見れる場所に置いてあり目を通してしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の方の協力のもと災害時の避難訓練を行っている。また、勤務始めに避難経路・消火器の配置場所の確認を行っている。	年2回、昼夜それぞれを想定した避難誘導訓練を消防署、地域の方の協力のもと実施している。消火器、設備点検は業者に依頼して定期的な点検が行われており、備蓄品、避難経路は職員が定期的に点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけ・ケアに取り組んでいる。	研修により「人格の尊重」や「プライバシーへの配慮」について全職員が十分理解しており、羞恥心に配慮した適切な呼びかけや声かけを行っている。実習生、ボランティアからは誓約書を書いてもらいプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表しやすい雰囲気を作り、個々の行きたい所やしたい事を尊重している。自己主張が出来にくい方でも何気ない会話や表情から本人の思いを汲み取るよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	相手の立場に立ったケアに努め、一人ひとりに合ったレクリエーション・作業・外出等希望を取り入れ支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の行きたい理美容院の利用・洋服選びを支援している。希望によりお化粧品やマニキュア等のおしゃれを楽しんで頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように個々の嗜好を把握し、週1回入居者の好みのメニューを取り入れている。野菜の皮剥き・片付け等を入居者の方と一緒に協力しながら行っている。	週1回、利用者一人ひとりのお好みメニュー日を設けて、楽しい食事になるよう工夫している。職員も一緒にテーブルの席に着き、家庭的な雰囲気では話を楽しみながら、さりげなくサポートを支援し、利用者の体調に合わせて調理、片付けを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の把握に努め、個々に合わせた量・硬さ・とろみ等の工夫をし摂取量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外部より歯科衛生士を招き、口腔ケアの重要性を学び理解した上で毎食後、口腔ケアを行っている。夜間、義歯を預かり洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをセンター方式を活用して把握し、声掛け・誘導を行い、失禁・失敗なく排泄できるよう支援している。	排泄表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、声掛け・トイレ誘導を行い、失敗なく排泄できるよう支援している。おむつの使用の継続については、朝のミニカンファレンスを行い、随時、見直しや確認が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を飲んで頂いたり、食物繊維の豊富な食べ物等食事の工夫を行っている。また、歩行運動や体操など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望がない時は週2回は入浴して頂ける様働きかけている。入浴中はコミュニケーションや手指運動を楽しく行い、気持ちよく入浴できるよう支援している。	毎日入浴ができる体制も整っており、同性介助、一人介助、二人介助等、利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、声掛けする職員を変えたり、時間をおいて声掛けをするなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に休息できるよう見守っている。また、居室内の照明・室温を調節し安心して休めるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・副作用について全職員が理解できるよう薬剤師の方に説明して頂いている。また、服薬の変更があった場合、状態の変化に注意を払っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族より聞き取りし、本人が楽しいと思えることをレクリエーションや軽作業に取り入れたり、食べたい物を食べ、楽しみごとを持ちながら生活できるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時、一人ひとりの行きたい所へ出掛けられるよう支援している。自宅への外泊希望時は家族に協力をお願いしている。	日常的な散歩や近所のコンビニへの買い物など、個々の体調や希望により外出支援をしている。日常の会話により、希望や習慣を把握し、馴染みの場所への支援を行っている。近隣には大型ショッピングセンターや大型スーパーがあり、利用者は買い物や外食を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があった際はお金を所持して頂いている。また買物時、本人が支払いを行えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時には都度対応し、時々手紙や年賀状を書けるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回の室温・湿度チェックを行っており、快適な環境を維持するため随時調整している。四季に合わせた装飾に心掛けており、季節感を感じて頂いている。	ホーム内は季節に配慮した飾り付けで、明るくブラインド等で光を調節できるようになっている。また、毎日3回の室温・湿度チェックを行い、快適な環境維持に努めている。リビングには、大型テレビや応接セットがあり、畳コーナーや喫煙室など、利用者が好きな場所で四季を感じながらくつろげる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の他にソファを設置しており、本人の好きな場所で過ごせるよう支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を持って来て頂けるよう働きかけ、これまでと変わらない生活を継続し本人が安心して過ごせる居室にしている。	居室は、馴染みの家具や調度品を持ち込んでおり、行事の写真や家族の写真、自分で作った作品、孫の作品等を飾り、季節感にも気を配り、居心地良く安心して過ごせるような居室づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室等分かるように目印を付け、混乱しないよう環境整備を行っている。また、手すりを設置し安全に歩行できるようにしている。			